



小林市立永久津小学校 校長通信

令和7年7月30日 第66号 (文責 校長 吉井秀一)

TEL: (0984) 23-3515 E-mail: nagakutukko@miyazaki-c.ed.jp

叱ることからの解放

夏休みに入る前、子どもたちには、「休みを計画的に過ごす」ことを話しました。お休みはまだ前半ですが、どんな毎日を過ごしていますか。夏休みが終わる直前に毎年苦勞した私の体験から、子どもたちには宿題の残りを心配しないで、夏休みにしかできない体験を楽しんでほしいと思っています。計画が立っていない子や、崩れてきている子は、あと3週間の計画を立て直しましょう。

さて、残念なことですが、全国では夏休み中の事故、特に水の事故で尊い子どもたちの命が失われています。校区内にも水遊びができそうな河川や用水路があり、事故の可能性はゼロではありません。不慣れな外出先では、交通事故故にも気を付けましょう。夏休み明け、子どもたちの元気で満ちた笑顔がそろっているのを楽しみにしています。

私が生まれた今から61年前の一九六四年に、アメリカでは次のような実験が行われていました。

ある小学校の先生に「これは、これから成績が上がる生徒の名簿です。」と言って担任の先生に渡しました。実はこの名簿は、単にランダムに選ばれたごく普通の生徒の名簿でした。

担任時代の私は、一人一人に期待を寄せるのではなく、達成すべき目標しか頭になく「頑張り足りない。」「みんなができるのにできないはずはない。」と子どもと自分に言い聞かせて指導していました。それが熱心な先生だと思い込んでいました。

しかし実際には、一人一人に得意不得意、身体の発達違って一年近く違う子がいるのです。子どもの目標ではなく自分の目標を押し付けて、大切な可能性や自信を摘み取っていたのかもしれない。今さらながら反省します。

その後、ランダムに選ばれたはずの子どもたちは、格段に成績が上がったというのです。これは、アメリカの教育心理学者ロバート・ローゼンタールが「ピグマリオン効果」を発見するものとなった実験です。

「ピグマリオン効果」とは、教師や上司からほめられ、期待を寄せられることによって、勉強や仕事への意欲や成果がアップする心理的な効果です。

② 過程も評価

結果だけでなく、取り組んだ態度や意欲をほめる。

③ 任せて見守る

口を挟まず、自分で判断することを経験させる。

④ レベルにあった「期待」

プレッシャーにならず、やる気の出るレベルにする。

⑤ ヒントを与える

結果が出ないときは、一緒に考えてサポートする。

⑥ 途中をほめる

取り組んでいる姿を常に認め、声をかける。

「毎日の子育てで必死なのに、そんなのんびりしたことできるか!」との声も聞こえてきそうですが、子どもの可能性を信じて、良いところを(探して)認め、できたことをほめることで子どもは自分が期待されていると感じます。

子どもとの向き合い方を見直し、大人も叱ったり責めたりすることから解放されて楽になるのであれば、試してみる価値はあるのでは…。

夏休み中の連絡

8月12日(火)～8月15日(金)は学校閉庁日で前後の土日等を含め学校に連絡が付きません。緊急に連絡が必要な場合は、市学校教育課(23-0424)までお願いします。また、学校から安心・安全メールで連絡することもありますのでよろしくお願いします。

学校近況スナップ

「おみごと9連覇！」



コロナ期からずいぶん長い間中止が続いていた市 PTA バレー大会ですが、7 月 27 日(日)に 6 年ぶりに開催されました。

平成22年から途中台風等での中止を挟んで8連覇中だった永久津校区チームは、今回みごと9連覇を達成しました。

選手の皆さん、ご苦勞様でした。

「学童疎開」を通して戦争について学ぶ

「学童疎開」という言葉をご存じですか。戦争末期、沖縄への攻撃が激しくなり、沖縄にすむ子どもたちは、子どもだけで故郷を離れ、当時の小林町（現本市）にも、たくさん子どもたちが疎開してきました。



当時の様子をもとに沖縄県宮古島市総合博物館が制作した紙芝居を、登校日に子どもたちにも見せました。戦後 80 年の節目を迎える今年。みんなが平和について考えるきっかけをつくってほしいと思います。

日頃の子どもたちの様子やお知らせ、行事の計画などは学校 HP も見てくださいね。
(URL) <https://cms.miyazaki-c.ed.jp/1408/>